

AWS Certified Cloud Practitioner (CLF-C02) 試験ガイド

はじめに

AWS Certified Cloud Practitioner (CLF-C02) 試験は、役職を問わず、AWS クラウドに関する総合的な理解を効果的に実証できる個人を対象としています。

試験では、次のタスクについての受験者の能力が検証されます。

- AWS クラウドの価値を説明する。
- AWS の責任共有モデルを理解し、説明する。
- セキュリティのベストプラクティスを理解する。
- AWS クラウドのコスト、エコノミクス、請求方法を理解する。
- コンピューティングサービス、ネットワークサービス、データベースサービス、ストレージサービスなど、AWS の主要なサービスを説明し、位置付ける。
- 一般的なユースケース向けの AWS のサービスを特定する。

受験対象者について

この認定は、AWS クラウドの設計、実装、オペレーションの経験が 6 か月までの受験者が対象です。この認定は、IT 以外のバックグラウンドを持つ受験者に適しています。そういった受験者として、AWS クラウドのキャリアの初期段階にある人や、AWS クラウドで役割を担う人々と一緒に仕事をしている人が挙げられます。

推奨される AWS の知識

受験対象者は、以下の分野における AWS の知識を持っている必要があります。

- AWS クラウドのコンセプト
- AWS クラウドにおけるセキュリティとコンプライアンス
- AWS の主要なサービス
- AWS クラウドエコノミクス

受験対象者として範囲外の職務

受験対象者が実施できることが想定されていない職務は、以下のリストのとおりです。このリストはすべてを網羅しているわけではありません。以下のタスクは、本試験の範囲外です。

- コーディング
- クラウドアーキテクチャ設計
- トラブルシューティング
- 実装
- 負荷テストとパフォーマンステスト

試験に出題される可能性のあるテクノロジーと概念のリスト、試験範囲内の **AWS** のサービスと機能のリスト、および試験範囲外の **AWS** のサービスと機能のリストについては、付録 A を参照してください。

試験内容

解答タイプ

試験には次の 2 種類の設問があります。

- **択一選択問題:** 正しい選択肢が 1 つ、誤った選択肢 (不正解) が 3 つ提示される。
- **複数選択問題:** 5 つ以上の選択肢のうち、正解が 2 つ以上ある。

設問の記述に最もよく当てはまるもの、または正解となるものを 1 つ以上選択します。不正解の選択肢は、知識や技術が不十分な受験者が選択してしまいそうな、設問内容と一致するもっともらしい解答になっています。

未解答の設問は不正解とみなされます。推測による解答にペナルティはありません。試験には、スコアに影響する設問が 50 問含まれています。

採点対象外の設問

試験には、スコアに影響しない採点対象外の設問が 15 問含まれています。**AWS** では、こういった採点対象外の設問での成績情報を収集し、今後採点対象の設問として使用できるかどうかを評価します。試験では、どの設問が採点対象外かは受験者にわかりません。

試験の結果

AWS Certified Cloud Practitioner (CLF-C02) 試験は、合否判定方式の試験です。試験の採点は、認定業界のベストプラクティスおよびガイドラインに基づいた、AWS の専門家によって定められる最低基準に照らして行われます。

試験の結果は、100～1,000 のスケールスコアとして報告されます。合格スコアは 700 です。このスコアにより、試験全体の成績と合否がわかります。複数の試験間で難易度がわずかに異なる可能性があるため、スコアを均等化するためにスケールスコアが使用されます。

スコアレポートには、各セクションの成績を示す分類表が含まれる場合があります。試験には補正スコアリングモデルが使用されるため、セクションごとに合否ラインは設定されておらず、試験全体のスコアで合否が判定されます。

試験の各セクションには特定の重みが設定されているため、各セクションに割り当てられる設問数が異なる場合があります。分類表には、受験者の得意な部分と弱点を示す一般的な情報が含まれます。セクションごとのフィードバックを解釈する際は注意してください。

試験内容の概要

この CLF-C02 試験ガイドには、試験に設定された重み、コンテンツドメイン、タスクステートメントが含まれています。試験の以前のバージョン (CLF-C01) と現在のバージョン (CLF-C02) の比較については、付録 B を参照してください。

本ガイドは、試験内容の包括的なリストを提供するものではありません。ただし、各タスクステートメントの追加情報を使って、試験の準備に役立てることができます。

本試験のコンテンツドメインと重み設定は以下のとおりです。

- 第 1 分野: クラウドのコンセプト (採点対象コンテンツの 24%)
- 第 2 分野: セキュリティとコンプライアンス (採点対象コンテンツの 30%)
- 第 3 分野: クラウドテクノロジーとサービス (採点対象コンテンツの 34%)
- 第 4 分野: 請求、料金、およびサポート (採点対象コンテンツの 12%)

第 1 分野: クラウドのコンセプト

タスクステートメント 1.1: AWS クラウドの利点を定義する。

対象知識:

- AWS クラウドの価値提案

対象スキル:

- 規模の経済についての理解 (コスト削減など)
- グローバルインフラストラクチャの利点の理解 (デプロイのスピード、グローバルリーチなど)
- 高可用性、伸縮性、俊敏性の利点の理解

タスクステートメント 1.2: AWS クラウドの設計原則を特定する。

対象知識:

- AWS Well-Architected フレームワーク

対象スキル:

- Well-Architected フレームワークの柱の理解 (運用上の優秀性、セキュリティ、信頼性、パフォーマンス効率、コスト最適化、持続可能性など)
- Well-Architected フレームワークのさまざまな柱の相違点の特定

タスクステートメント 1.3: AWS クラウドへの移行の利点と戦略を理解する。

対象知識:

- クラウド導入戦略
- クラウド移行ジャーニーをサポートするリソース

対象スキル:

- AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF) の利点の理解 (ビジネスリスクの軽減、環境・社会・ガバナンス (ESG) パフォーマンスの向上、収益の増大、運用効率の向上など)
- 適切な移行戦略の特定 (データベースのレプリケーション、AWS Snowball の使用など)

タスクステートメント 1.4: クラウドエコノミクスのコンセプトを理解する。

対象知識:

- クラウドエコノミクスの側面
- クラウド移行によるコスト削減

対象スキル:

- 変動費と引き合わせた固定費の役割の理解
- オンプレミス環境に関連するコストの理解
- さまざまなライセンス戦略の相違点の理解 (Bring Your Own License [BYOL] モデルとライセンス込みモデルの比較など)
- 適正なサイジングのコンセプトの理解
- オートメーションの利点の特定 (AWS CloudFormation を使用したプロビジョニングと設定管理など)
- マネージド AWS サービスの特定 (Amazon RDS、Amazon Elastic Container Service [Amazon ECS]、Amazon Elastic Kubernetes Service [Amazon EKS]、Amazon DynamoDB など)

第 2 分野: セキュリティとコンプライアンス

タスクステートメント 2.1: AWS の責任共有モデルを理解する。

対象知識:

- AWS 責任共有モデル

対象スキル:

- AWS 責任共有モデルのコンポーネントの認識
- AWS におけるお客様の責任の説明
- AWS の責任の説明
- お客様と AWS が共有する責任の説明
- 使用するサービス (Amazon RDS、AWS Lambda、Amazon EC2 など) に応じて、AWS の責任とお客様の責任がどのように変化するかの説明

タスクステートメント 2.2: AWS クラウドのセキュリティ、ガバナンス、およびコンプライアンスのコンセプトを理解する。

対象知識:

- AWS のコンプライアンスとガバナンスについてのコンセプト
- クラウドセキュリティの利点 (暗号化など)
- クラウドのセキュリティ関連のログをキャプチャし、検索する場所

対象スキル:

- AWS のコンプライアンス情報を確認できる場所の特定 (AWS Artifact など)
- さまざまな地理的な場所や業界のコンプライアンスのニーズについての理解 (AWS コンプライアンスなど)
- お客様が AWS リソースを保護する方法の説明 (Amazon Inspector、AWS Security Hub、Amazon GuardDuty、AWS Shield など)
- さまざまな暗号化オプションの特定 (転送時の暗号化、保管時の暗号化など)
- ガバナンスとコンプライアンスに役立つサービスの認識 (Amazon CloudWatch を使用したモニタリング、AWS CloudTrail、AWS Audit Manager、AWS Config による監査、アクセスレポートを使用したレポート作成など)
- AWS サービスによって異なるコンプライアンス要件の認識

タスクステートメント 2.3: AWS アクセス管理機能を特定する。

対象知識:

- ID とアクセス管理 (AWS Identity and Access Management [IAM] など)
- AWS ルートユーザーアカウントを保護することの重要性
- 最小権限の原則
- AWS IAM Identity Center (AWS Single Sign-On)

対象スキル:

- アクセスキー、パスワードポリシー、認証情報のストレージの理解 (AWS Secrets Manager、AWS Systems Manager など)
- AWS のさまざまな認証方法の特定 (多要素認証 [MFA]、IAM Identity Center、アカウント間の IAM ロールなど)
- 最小権限の原則に準拠するグループ、ユーザー、カスタムポリシー、マネージドポリシーの定義
- アカウントのルートユーザーのみが実行できるタスクの特定
- ルートユーザー保護を実現できる方法の理解
- アイデンティティ管理のタイプの理解 (フェデレーテッドなど)

タスクステートメント 2.4: セキュリティのためのコンポーネントとリソースを特定する。

対象知識:

- AWS が提供するセキュリティ機能
- AWS が提供するセキュリティに関連するドキュメント

対象スキル:

- AWS のセキュリティ機能とサービスの説明 (セキュリティグループ、ネットワーク ACL、AWS WAF など)
- サードパーティーのセキュリティ製品を AWS Marketplace で入手できることの理解
- AWS セキュリティ情報を入手できる場所の特定 (AWS ナレッジセンター、AWS セキュリティセンター、AWS Security Blog など)
- セキュリティの問題の特定に向けた AWS サービスの利用についての理解 (AWS Trusted Advisor など)

第 3 分野: クラウドテクノロジーとサービス

タスクステートメント 3.1: AWS クラウドでのデプロイと運用の方法を定義する。

対象知識:

- AWS クラウドでのプロビジョニングと運用のさまざまな方法
- AWS サービスにアクセスするさまざまな方法
- クラウドデプロイモデルの種類
- 接続オプション

対象スキル:

- プログラムによるアクセス (API、SDK、CLI など)、AWS マネジメントコンソール、Infrastructure as Code (IaC) などのオプションの決定
- 要件を評価し、1 回限りのオペレーションと反復可能なプロセスのどちらを使用するかを判断
- さまざまなデプロイモデルの特定 (クラウド、ハイブリッド、オンプレミス など)
- 接続オプションの特定 (AWS VPN、AWS Direct Connect、パブリックインターネットなど)

タスクステートメント 3.2: AWS のグローバルインフラストラクチャを定義する。

対象知識:

- AWS リージョン、アベイラビリティゾーン、エッジロケーション
- 高可用性
- 複数リージョンの使用
- エッジロケーションの利点
- AWS Wavelength Zones と AWS Local Zones

対象スキル:

- リージョン、アベイラビリティゾーン、エッジロケーション間の関係の説明
- 複数のアベイラビリティゾーンを使用して高可用性を実現する方法の説明
- アベイラビリティゾーン間で単一障害点が共有されないことの認識
- 複数のリージョンを使用するケースを説明 (災害対策、事業の継続性、エンドユーザーのための低レイテンシー、データ主権など)
- エッジロケーションの利点の概要を説明 (Amazon CloudFront、AWS Global Accelerator など)

タスクステートメント 3.3: AWS のコンピューティングサービスを特定する。

対象知識:

- AWS コンピューティングサービス

対象スキル:

- さまざまな EC2 インスタンスタイプの適切な使用方法の認識 (コンピューティング最適化、ストレージ最適化など)
- さまざまなコンテナオプションの適切な使用方法の認識 (Amazon ECS、Amazon EKS など)
- さまざまなサーバーレスコンピューティングオプションの適切な使用方法の認識 (AWS Fargate、Lambda など)
- オートスケーリングにより提供される伸縮性の認識
- ロードバランサーの目的の特定

タスクステートメント 3.4: AWS のデータベースサービスを特定する。

対象知識:

- AWS データベースサービス
- データベース移行

対象スキル:

- EC2 でホストするデータベースと AWS マネージドデータベースのどちらを使用すべきかの決定
- リレーショナルデータベースの特定 (Amazon RDS、Amazon Aurora など)
- NoSQL データベースの特定 (DynamoDB など)
- メモリベースのデータベースの特定
- データベース移行ツールの特定 (AWS Database Migration Service [AWS DMS]、AWS Schema Conversion Tool [AWS SCT] など)

タスクステートメント 3.5: AWS のネットワークサービスを特定する。

対象知識:

- AWS ネットワークサービス

対象スキル:

- VPC コンポーネントの特定 (サブネット、ゲートウェイなど)
- VPC のセキュリティについての理解 (ネットワーク ACL、セキュリティグループなど)
- Amazon Route 53 の目的の理解
- エッジサービスの特定 (CloudFront、Global Accelerator など)
- AWS へのネットワーク接続オプションの特定 (AWS VPN、Direct Connect など)

タスクステートメント 3.6: AWS のストレージサービスを特定する。

対象知識:

- AWS ストレージサービス

対象スキル:

- オブジェクトストレージの用途の特定
- Amazon S3 ストレージクラスの違いの認識
- ブロックストレージソリューションの特定 (Amazon Elastic Block Store [Amazon EBS]、インスタンスストアなど)
- ファイルサービスの特定 (Amazon Elastic File System [Amazon EFS]、Amazon FSx など)
- キャッシュ済みファイルシステムの特定 (AWS Storage Gateway など)
- ライフサイクルポリシーのユースケースの理解
- AWS Backup のユースケースの理解

タスクステートメント 3.7: AWS の人工知能および機械学習 (AI/ML) サービスと分析サービスを特定する。

対象知識:

- AWS AI/ML サービス
- AWS の分析サービス

対象スキル:

- さまざまな AI/ML サービスと、各サービスが実行するタスクの理解 (Amazon SageMaker、Amazon Lex、Amazon Kendra など)
- データ分析のためのサービスの特定 (Amazon Athena、Amazon Kinesis、AWS Glue、Amazon QuickSight など)

タスクステートメント 3.8: その他の範囲内の AWS サービスカテゴリを特定する。

対象知識:

- Amazon EventBridge、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS)、Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS) のアプリケーション統合サービス
- Amazon Connect と Amazon Simple Email Service (Amazon SES) のビジネスアプリケーションサービス
- スタートアップ向け AWS Activate、AWS IQ、AWS Managed Services (AMS)、AWS Support のカスタマーエンゲージメントサービス
- AWS AppConfig、AWS Cloud9、AWS CloudShell、AWS CodeArtifact、AWS CodeBuild、AWS CodeCommit、AWS CodeDeploy、AWS CodePipeline、AWS CodeStar、AWS X-Ray のデベロッパーツールサービスと機能
- Amazon AppStream 2.0、Amazon WorkSpaces、Amazon WorkSpaces Web のエンドユーザーコンピューティングサービス
- AWS Amplify と AWS AppSync のフロントエンドウェブとモバイルサービス
- AWS IoT Core と AWS IoT Greengrass の IoT サービス

対象スキル:

- メッセージの配信やアラートと通知の送信に適切なサービスの選択
- ビジネスアプリケーションのニーズを満たす適切なサービスの選択
- AWS カスタマーサポートに適したサービスの選択
- ビジネスサポートを支援する適切なオプションの選択
- アプリケーションの開発、デプロイ、トラブルシューティング向けツールの特定
- エンドユーザーのマシン上の仮想マシン (VM) の出力を表示できるサービスの特定
- フロントエンドサービスとモバイルサービスを作成してデプロイできるサービスの特定
- IoT デバイスを管理するサービスの特定

第4分野: 請求、料金、およびサポート

タスクステートメント 4.1: AWS の料金モデルを比較する。

対象知識:

- コンピューティング購入オプション (オンデマンドインスタンス、リザーブドインスタンス、スポットインスタンス、**Savings Plans**、専用ホスト、ハードウェア専用インスタンス、キャパシティの予約など)
- データ転送料金
- ストレージオプションと階層

対象スキル:

- さまざまなコンピューティング購入オプションを使用すべきケースの特定と比較
- リザーブドインスタンスの柔軟性の説明
- **AWS Organizations** におけるリザーブドインスタンスの動作の説明
- 受信データ転送コストと送信データ転送コストの理解 (あるリージョンから別のリージョンへの転送、同じリージョン内の転送など)
- さまざまなストレージオプションと階層のさまざまな料金オプションの理解

タスクステートメント 4.2: 請求、予算、およびコスト管理のためのリソースを理解する。

対象知識:

- 請求サポートと情報
- **AWS** サービスの料金についての情報
- **AWS Organizations**
- **AWS** コスト配分タグ

対象スキル:

- **AWS Budgets**、**AWS Cost Explorer**、**AWS Billing Conductor** の適切な用途と機能の理解
- **AWS** 料金見積りツールの適切な用途と機能の理解
- **AWS Organizations** の一括請求 (コンソリデーティッドビルギング) とコスト配分の理解
- さまざまなタイプのコスト配分タグと請求レポート (**AWS Cost and Usage Report** など) との関係の理解

タスクステートメント 4.3: AWS の技術リソースと AWS サポートのオプションを特定する。

対象知識:

- AWS の公式ウェブサイトで提供されているリソースとドキュメント
- AWS サポートプラン
- 独立系ソフトウェアベンダー (ISV) やシステムインテグレーターなどの AWS パートナーネットワークの役割
- AWS サポートセンター

対象スキル:

- AWS 公式ウェブサイトでの AWS ホワイトペーパー、ブログ、ドキュメントの検索
- AWS の技術リソースの特定と検索 (AWS Prescriptive Guidance、AWS ナレッジセンター、AWS re: Post など)
- AWS のお客様向けの AWS サポートオプションの特定 (カスタマーサービスとコミュニティ、AWS デベロッパーサポート、AWS ビジネスサポート、AWS エンタープライズ On-Ramp サポート、AWS エンタープライズサポートなど)
- コスト最適化のための環境の管理とモニタリングに役立つ Trusted Advisor、AWS Health Dashboard、AWS Health API の役割の特定
- AWS リソースの不正使用を報告する AWS Trust & Safety チームの役割の特定
- AWS パートナーの役割の理解 (AWS Marketplace、独立系ソフトウェアベンダー [ISV]、システムインテグレーターなど)
- AWS パートナーになる利点の特定 (パートナートレーニングと認定、パートナーイベント、パートナーボリュームディスカウントなど)
- AWS Marketplace が提供する主要なサービスの特定 (コスト管理、ガバナンス、資格など)
- AWS で利用できる技術支援オプションの特定 (AWS プロフェッショナルサービス、AWS ソリューションアーキテクトなど)

付録 A: テクノロジーとコンセプト

試験に出題される可能性のあるテクノロジーと概念

以下は、試験に出題される可能性のあるテクノロジーと概念のリストです。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合があります。このリストにおける項目の掲載順序や配置は、その項目の相対的な重みや試験における重要性を示すものではありません。

- API
- AWS クラウドへの移行の利点
- AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF)
- AWS コンプライアンス
- コンピューティング
- コスト管理
- データベース
- Amazon EC2 インスタンスタイプ (リザーブド、オンデマンド、スポットなど)
- AWS グローバルインフラストラクチャ (AWS リージョン、アベイラビリティゾーンなど)
- Infrastructure as code (IaC)
- AWS ナレッジセンター
- 機械学習
- マネジメントとガバナンス
- 移行とデータ転送
- ネットワークサービス
- AWS パートナーネットワーク
- AWS Prescriptive Guidance
- AWS 料金見積りツール
- AWS プロフェッショナルサービス
- AWS re:Post
- AWS SDK
- セキュリティ
- AWS Security Blog
- AWS セキュリティセンター
- AWS 責任共有モデル
- AWS ソリューションアーキテクト

- ストレージ
- AWS サポートセンター
- AWS サポートプラン
- AWS Well-Architected フレームワーク

範囲内の AWS のサービスと機能

以下に、試験範囲の AWS のサービスと機能のリストを示します。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合があります。各 AWS のサービスは、サービスの主な機能に応じたカテゴリに分けられています。

分析:

- Amazon Athena
- AWS Data Exchange
- Amazon EMR
- AWS Glue
- Amazon Kinesis
- Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK)
- Amazon OpenSearch Service
- Amazon QuickSight
- Amazon Redshift

アプリケーション統合:

- Amazon EventBridge
- Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS)
- Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS)
- AWS Step Functions

ビジネスアプリケーション:

- Amazon Connect
- Amazon Simple Email Service (Amazon SES)

クラウド財務管理:

- AWS Billing Conductor
- AWS Budgets
- AWS Cost and Usage Report
- AWS Cost Explorer
- AWS Marketplace

コンピューティング:

- AWS Batch
- Amazon EC2
- AWS Elastic Beanstalk
- Amazon Lightsail
- AWS Local Zones
- AWS Outposts
- AWS Wavelength

コンテナ:

- Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR)
- Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS)
- Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS)

カスタマーエンゲージメント:

- スタートアップ向け AWS Activate
- AWS IQ
- AWS Managed Services (AMS)
- AWS サポート

データベース:

- Amazon Aurora
- Amazon DynamoDB
- Amazon MemoryDB for Redis
- Amazon Neptune
- Amazon RDS

デベロッパーツール:

- AWS AppConfig
- AWS CLI
- AWS Cloud9
- AWS CloudShell
- AWS CodeArtifact
- AWS CodeBuild
- AWS CodeCommit
- AWS CodeDeploy
- AWS CodePipeline
- AWS CodeStar
- AWS X-Ray

エンドユーザーコンピューティング:

- Amazon AppStream 2.0
- Amazon WorkSpaces
- Amazon WorkSpaces Web

フロントエンドのウェブとモバイル:

- AWS Amplify
- AWS AppSync
- AWS Device Farm

IoT:

- AWS IoT Core
- AWS IoT Greengrass

機械学習:

- Amazon Comprehend
- Amazon Kendra
- Amazon Lex
- Amazon Polly
- Amazon Rekognition
- Amazon SageMaker

- Amazon Textract
- Amazon Transcribe
- Amazon Translate

マネジメントとガバナンス:

- AWS Auto Scaling
- AWS CloudFormation
- AWS CloudTrail
- Amazon CloudWatch
- AWS Compute Optimizer
- AWS Config
- AWS Control Tower
- AWS Health Dashboard
- AWS Launch Wizard
- AWS License Manager
- AWS マネジメントコンソール
- AWS Organizations
- AWS Resource Groups とタグエディタ
- AWS Service Catalog
- AWS Systems Manager
- AWS Trusted Advisor
- AWS Well-Architected Tool

移行と転送:

- AWS Application Discovery Service
- AWS Application Migration Service
- AWS Database Migration Service (AWS DMS)
- AWS Migration Hub
- AWS Schema Conversion Tool (AWS SCT)
- AWS Snow ファミリー
- AWS Transfer Family

ネットワークとコンテンツ配信:

- Amazon API Gateway
- Amazon CloudFront
- AWS Direct Connect
- AWS Global Accelerator
- Amazon Route 53
- Amazon VPC
- AWS VPN

セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス:

- AWS Artifact
- AWS Audit Manager
- AWS Certificate Manager (ACM)
- AWS CloudHSM
- Amazon Cognito
- Amazon Detective
- AWS Directory Service
- AWS Firewall Manager
- Amazon GuardDuty
- AWS Identity and Access Management (IAM)
- AWS IAM Identity Center (AWS Single Sign-On)
- Amazon Inspector
- AWS Key Management Service (AWS KMS)
- Amazon Macie
- AWS Network Firewall
- AWS Resource Access Manager (AWS RAM)
- AWS Secrets Manager
- AWS Security Hub
- AWS Shield
- AWS WAF

サーバーレス:

- AWS Fargate
- AWS Lambda

ストレージ:

- AWS Backup
- Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS)
- Amazon Elastic File System (Amazon EFS)
- AWS Elastic Disaster Recovery
- Amazon FSx
- Amazon S3
- Amazon S3 Glacier
- AWS Storage Gateway

範囲外の AWS のサービスと機能

以下に、試験対象外の AWS のサービスと機能のリストを示します。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合があります。

ゲーム関連テクノロジー:

- Amazon GameLift
- Amazon Lumberyard

メディアサービス:

- AWS Elemental アプリケーションとソフトウェア
- AWS Elemental MediaConnect
- AWS Elemental MediaConvert
- AWS Elemental MediaLive
- AWS Elemental MediaPackage
- AWS Elemental MediaStore
- AWS Elemental MediaTailor
- Amazon Interactive Video Service (Amazon IVS)

ロボティクス:

- AWS RoboMaker

付録 B: CLF-C01 と CLF-C02 の比較

対照比較

次の表は、CLF-C01 試験 (2023 年 9 月 18 日まで実施) と CLF-C02 試験 (2023 年 9 月 19 日から実施) のドメインと、各ドメインの採点対象の設問の割合を示しています。

C01 ドメイン	採点対象 の設問の 割合	C02 ドメイン	採点対象 の設問の 割合
1: クラウドのコンセプト	26%	1: クラウドのコンセプト	24%
2: セキュリティとコンプライアンス	25%	2: セキュリティとコンプライアンス	30%
3: テクノロジー	33%	3: クラウドテクノロジーとサービス	34%
4: 請求と料金設定	16%	4: 請求、料金、およびサポート	12%

CLF-C02 でのコンテンツの追加

CLF-C02 タスクステートメント 1.3: AWS クラウドへの移行の利点と戦略を理解する。

この新しいタスクステートメントには、AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF) が含まれています。

CLF-C02 でのコンテンツの削除

試験から削除されたコンテンツはありません。

CLF-C02 でのコンテンツの再分類

CLF-C01 の次の 7 つのタスクステートメントのコンテンツは保持され、CLF-C02 の 1 つ以上のタスクに再分類されました。

1. CLF-C01 タスクステートメント 1.1: AWS クラウドとその価値提案を定義する。
2. CLF-C01 タスクステートメント 1.2: AWS クラウドの経済性の側面を特定する。
3. CLF-C01 タスクステートメント 1.3: 各クラウドアーキテクチャ設計原則を説明する。
4. CLF-C01 タスクステートメント 2.2: AWS クラウドのセキュリティとコンプライアンスの概念を定義する。
5. CLF-C01 タスクステートメント 3.3: AWS の主要なサービスを特定する。

6. CLF-C01 タスクステートメント 3.4: テクノロジーサポートリソースを特定する。
7. CLF-C01 タスクステートメント 4.3: 請求に関するサポートに利用できるリソースを特定する。

CLF-C01 タスクステートメント 1.1 は、CLF-C02 では以下のタスクにマップされています。

- 1.1: AWS クラウドの利点を定義する。
- 1.3: AWS クラウドへの移行の利点と戦略を理解する。
- 1.4: クラウドエコノミクスのコンセプトを理解する。

CLF-C01 タスクステートメント 1.2 は、CLF-C02 では以下のタスクにマップされています。

- 1.4: クラウドエコノミクスのコンセプトを理解する。

CLF-C01 タスクステートメント 1.3 は、CLF-C02 では以下のタスクにマップされています。

- 1.2: AWS クラウドの設計原則を特定する。

CLF-C01 タスクステートメント 2.2 は、CLF-C02 では以下のタスクにマップされています。

- 2.2: AWS クラウドのセキュリティ、ガバナンス、およびコンプライアンスのコンセプトを理解する。
- 2.3: AWS アクセス管理機能を特定する。

CLF-C01 タスクステートメント 3.3 は、CLF C02 では以下のタスクにマップされています。

- 3.3: AWS のコンピューティングサービスを特定する。
- 3.4: AWS のデータベースサービスを特定する。
- 3.5: AWS のネットワークサービスを特定する。
- 3.6: AWS のストレージサービスを特定する。
- 3.7: AWS の人工知能および機械学習 (AI/ML) サービスと分析サービスを特定する。
- 3.8: その他の範囲内の AWS サービスカテゴリを特定する。

CLF-C01 タスクステートメント 3.4 は、CLF-C02 では以下のタスクにマップされています。

- 4.3: AWS の技術リソースと AWS サポートのオプションを特定する。

CLF-C01 タスクステートメント 4.3 は、CLF-C02 では以下のタスクにマップされています。

- 4.2: 請求、予算、およびコスト管理のためのリソースを理解する。
- 4.3: AWS の技術リソースと AWS サポートのオプションを特定する。

アンケート

この試験ガイドはどの程度役に立ちましたか？ [アンケートに答えて](#)お知らせください。